

5 - 5 伊豆半島におけるラドン観測 (XXI) Radon Observation in the Izu Peninsula (XXI)

東京大学大学院理学系研究科
Graduate School of Science, The University of Tokyo

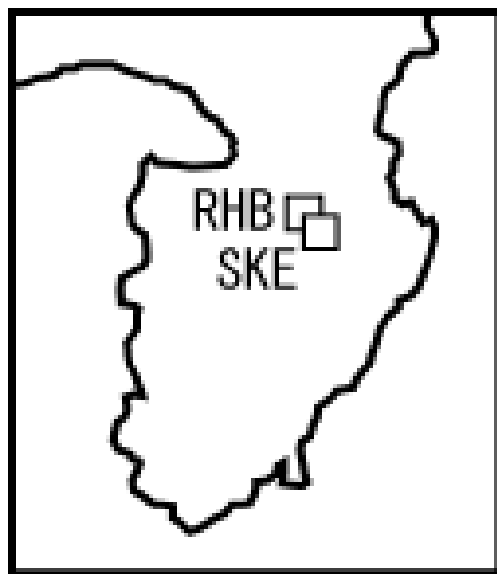
前報¹⁾ に引き続き，伊豆半島における地下水のラドン濃度の連続観測結果（2003年6月～2004年5月）を報告する。

観測点は，第1図に示す中伊豆第1（SKE），中伊豆第2（RHB）の2地点である。第2図は，各観測点における，1時間毎のラドン濃度（積算値）の24点移動平均値の時系列である。図の右上には，1998年以降のラドン濃度の観測値を示してある。

SKEのラドン濃度は観測期間中ほぼ一定である。2004年1月のカウント値の不整合点は観測装置のメンテナンスによる感度回復の影響が出ている。RHBでは，例年夏季に比べて冬季のラドン濃度は低く，変動も大きい。

参考文献

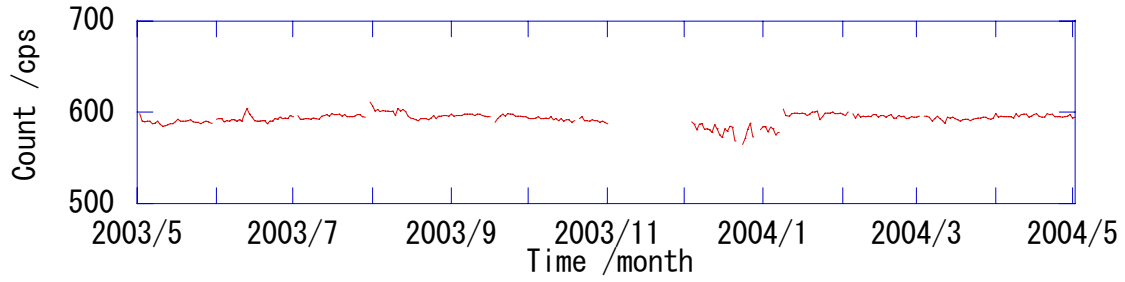
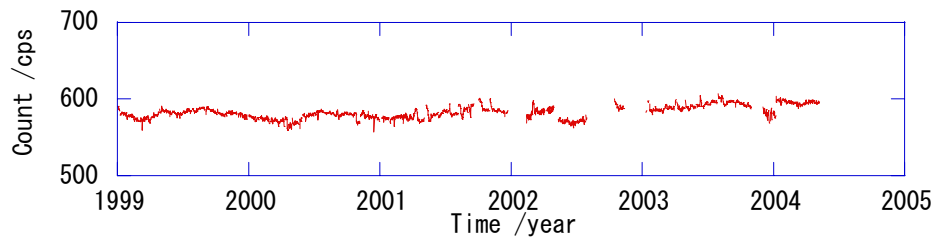
- 1) 東京大学大学院理学系研究科：伊豆半島におけるラドン観測（XX），連絡会報，168-169，70（2003）。



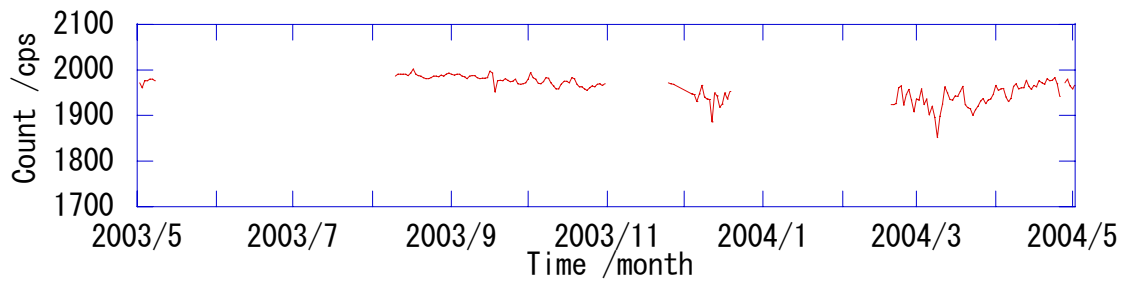
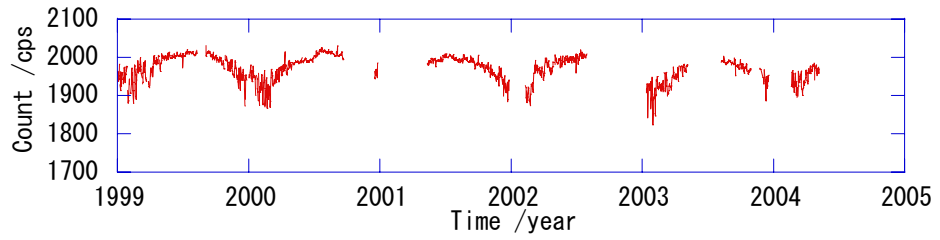
第1図 伊豆半島の地球化学観測点の位置

Fig.1 Locations of geochemical observation sites in the eastern part of Izu Peninsula.

SKE



RHB



第2図 SKE、RHB における地下水のラドン濃度変化

Fig.2 Temporal variations in the radon concentration in groundwater at SKE, RHB. The data are 24-hour moving average value.